

<「知るっば!久留米」 令和2年5月7日(木) 12:30~放送分>

地域おこし協力隊 ～第1回～ 地域おこし協力隊とは

<ゲスト： 田主丸地域おこし協力隊 黒田俊光さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば!久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。5月は久留米市で活躍する「地域おこし協力隊」にスポットをあてて、2回に分けてお送りします。

今回のゲストは、久留米市田主丸地域おこし協力隊のこの方です。

ゲスト:黒田俊光さん (以下「黒田」)

昨年4月から久留米市田主丸の地域おこし協力隊になった黒田です。

よろしくお願いします。

坂本 最初のテーマは、『地域おこし協力隊とは』です。

まずは、地域おこし協力隊とはどんな人たちなのか、制度についてご紹介します。

協力隊は2009年から始まった制度で、公共団体が都市地域から人口減少や高齢化が進む地方に移り住んだ人を地域おこし協力隊員として委嘱するという制度です。

隊員は一定期間地域に住んで、地域ブランドや地場製品の開発、販売、PRなどの地域おこしの支援や農林水産業へ従事します。

そして、地域の活動を行いながら、その地域への定住、定着していく取り組みです。

平成30年度は、全国の自治体で約5,500人の隊員が活動しています。

それでは、黒田さんのプロフィールと地域おこし協力隊になった経緯について伺っていきます。

黒田 私は山口県の岩国市生まれです。

そして、東京の電機メーカーに就職して、サラリーマンをしながら横浜に約30年住んでいました。

坂本 岩国っていえば、錦帯橋とかあるところですよね？

黒田 そうです。錦帯橋から歩いてすぐのところ、昔はよく散歩していました。

なぜ協力隊になったかなんですが、私は日本美術とか歴史が好きで、いつかはその作品に出てくるような日本的な風景とか伝統が残る土地で生活したいという思いが、協力隊に応募したきっかけでした。

坂本 なるほど、日本美術が好きで、日本的な風景っていうと、久留米の田主丸はまさに日本の原風景ですよね？

黒田 そうなんです。田主丸に広がる耳納連山を見て、私は一目惚れをしてしまったというのが協力隊になった大きなきっかけです。

坂本 耳納連山の印象が大きかったんですね。

黒田 今、パソコンで写真をお見せしていますが、これは私が久留米に来た初日に田主丸で撮った写真なんです。耳納連山の前に焚き火が二つか三つあって、その煙がたなびいてますよね？
これは、まさしく屏風絵じゃないですか？

坂本 ちょっとラジオなんでこの画像をお見せできないんですけど、皆さんも思い浮かべてください。
耳納連山の前に広大な農地が広がっていて、そこから一筋、二筋の煙がすーっと上がるっていう、昔ながらの日本だなあという風景です。

黒田 耳納連山の別名は、屏風山って言うじゃないですか？私はこの景色を見て、まさにそのとおりだって納得しました。
そして、住んでみて、もう一つ景観に特徴があることに気づきました。それは、田んぼとか畑を歩いていると、日本庭園にあるような植木がいっぱい並んでいるんですね。それが不思議だったんですよ。しかも、その中には20mとか30mあるような大木もあるんですけど、それが大型トラックで運ばれてしまうことにとっても驚きました。
また、今の時期なんですけど、畑を歩いているとゴボウを短く切ったような形でニョキニョキとした物がいっぱい立ってるんですけど、ご存知ですか？

坂本 ちょっとわからないのですが、チンアナゴみたいですね？

黒田 それは、ミカンなどの苗木の接木風景だったんですよ。
こういう植木とか苗木が、やっぱり田主丸が日本三大植木生産地であるという独特な風景を醸し出してるんです。これが一つの大きな魅力かなって思いました。

坂本 田植えとか野菜の苗植え付けはよく見るんですけど、さすがに私も植木の苗を植えるところは見たことなかったですね。

黒田 地域外の人には全く知らない不思議な風景だからこそ、それが田主丸の大きな魅力になっています。
こちらの写真は、去年、私が色々な村のお祭りを撮影したものです。
例えば、家々を一軒一軒回ってお祝いしていく獅子舞とか、日本では田主丸だけにしかない「虫追い祭」っていうのがあるんですね。

坂本 3年に1回のお祭りですよね？

黒田 はい、そうです。大きな武者人形を竹の先に付けて、それをぶつけ合うけんか祭りです。私はこのお

祭りに準備の段階から本番までずっと同行させてもらって、とっても貴重な体験をしました。

坂本 なかなか勇壮なお祭りですよね？

黒田 そうですね。こういう伝統がくらしの中に残っていて、それを楽しめるのが田主丸の魅力だなと思いました。

坂本 次にですね、黒田さんは地域おこし協力隊として、どんなお仕事とか取り組みをなさっていますか？

黒田 田主丸地域の魅力発信ということで、基本的には Twitter と Facebook で田主丸の魅力を発信しています。例えば、Twitter だと「旅日々・耳納北麓筑後川」という名前で検索していただければヒットすると思いますので、見ていただければと思います。

あるいは、こういったソーシャルネットワーク以外にも、去年の冬には田主丸の街中で久留米大学や久留米工業大学の学生さんと一緒にワインガーデンというイベントをやりました。

この写真は、ちょうど私がそのイベントで説明してるところです。何を説明してるかというと、ワインガーデンにもかかわらず、昭和40年代の田主丸のフィルムを持って人を見つけてきて、そのフィルムを上映しました。

坂本 そのフィルムには、何が映っていたんですか？

黒田 昭和40年代の植木とか、その頃、巨峰のぶどう狩りが始まった時期みたいですごい人気だった映像が残ってるんですよ。

坂本 それは貴重な資料なんじゃないですか？

黒田 そうなんです。そのフィルムがたまたま手に入ったんで、それを上映しながら当時を知る語り部の方に、当時の賑やかさなんかと一緒に語ってもらいました。

坂本 地元の人もこのフィルムの映像が懐かしかったり、知り合いがいたりして盛り上がったんじゃないですか？

黒田 地元の人たちも懐かしんでいて、その笑顔がとっても印象的でした。

坂本 知っている人の若い頃が映っていたりしそうですね？

黒田 そうかもしれませんね。

このフィルムは、近いうち YouTube で公開されます。そして、YouTube と連動した田主丸の紹介写真集もでますので、ご期待ください。

そして、今年はまた新しいことにもトライしたいと思います。

坂本 今日、田主丸エリアで地域おこし協力隊として活躍されている地域魅力発信プランナーの黒田さんに、プロフィールや現在の活動についてお伺いしました。
来週もよろしくお願いします。